平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	３１	都道府県・指定都市名	鳥取県・鳥取市
ふりがな **学校名** （児童数）	とっとりしりつはまむら 鳥取市立浜村小学校（２３６人）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：鳥取県鳥取市気高町八幡３８２－３
電話番号：０８５７－８２－０７２０
メールアドレス：hamamura-e@mailk.torikyo.ed.jp
学校のホームページ：http://www.torikyo.ed.jp/hamamura-e/

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：２小学校
○研究対象教科等：特別活動
○研究のキーワード：生きて働く段取る力・主張する力・振り返る力
※これ以降「３つの力」と呼ぶ
○研究成果のポイント
「同学年での学び合い」（学級活動（１）を中心）や「異学年での学び合い」（児童会活動等）を充実すれば，生きて働く「３つの力」がつく。
話合い活動では，出し合う・比べ合う・決定するの３つのステップを意識して行う。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

心と学びのひとりだち
～生きて働く段取る力・主張する力・振り返る力の育成～

（２）研究主題設定の理由

特別活動を研究の柱に据えた１年目。自分の思いを進んで伝えようとするようになり，学級内での諸活動が活性化し，子どもが前面に出る活動が多くなってきた。しかしながら，教師の指示を求めたり，折り合いを付けなければいけないほどの主張ができていなかったりといった実態が改めて見えてきた。

そこで，２年目の本年度は研究主題を「心と学びのひとりだち」～生きて働く段取る力・主張する力・振り返る力の育成～とし，育てたい力・目指す姿を明確にし，学級活動や児童会活動を中心に，「同学年での学び合い」と「異学年での学び合い」に取り組むことにした。

（３）研究体制

校長 ― 教頭 ― 研究推進委員会 ― 特活授業研究部（低学年部・中学年部・高学年部）
研究推進委員会 ― 特活部（児童会活動）
研究推進委員会 ― 理論研究部

（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	・「発達段階ごとに育てたい力」一覧表，学級の「育てたい力育成表」の作成 ・「学級経営案」，「特別活動全体計画」，「学級活動年間指導計画」の刷新 「児童会活動年間指導計画」，「学年の学級活動３６５日」の作成 ・学級活動（１），縦割り班活動の進め方の決定 ・授業研究会による学び方の検証（計画チームの編成・３ステップ・黒板の可視化） ・つながりを意識した縦割り班活動（振り返りをもとにした活動の流れの共有） ・研究成果の発表　　平成２５年１２月６日（金）研究発表会 ・研究のまとめ　　平成２６年　２月４日（火）研究指定校発表

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

〔３つの力〕

・段取る力
解決に向けて考えを巡らし，計画的に見通しを持って取り組む姿
・主張する力

根拠をはっきりとし，体験や例えを生かしながら自分の思いを熱く伝える姿

・振り返る力

次の活動に向けて今を見直し，互いを認め合いながらよりよい実践へと進めていく姿

『３つの力』は同学年での学び合いにより，自分たちの思いを安心して出し合い，よりよいクラス集団へと高める。また，『３つの力』は異学年での学び合いにより，児童自らが１年間の流れを見通しながら計画し，仕組み、実践する活動へとつながる。２つの学び合いが相互に結びつくことにより，学年を越えた児童の結びつきがより強まり，次の活動への期待感が膨らみ，学校を楽しく感じることになる。同時に，児童の自尊感情が高まり，自分たちの学級や学校に自信や安心感を持つことにもなる。

〔同学年での学び合い〕

①話合いの３ステップ

話合いの柱ごとに，「出し合う」，「比べ合う」，「決定する」の３つのステップを踏んで話合いをまとめていく。話合いの柱によって，３つのステップの進め方を工夫する。４５分間完結を目指した。

②板書の可視化

話合いの柱ごとに，話合いの３ステップの区切りを示すことで，全体の流れの中の今どの場面なのか意識しながら話合いをすることができるようにした。また，話合いの柱ごとに時間を明示して，計画チームとフロアの児童とで時間を大切にした話合いが作られるようにした。

〔異学年での学び合い〕

①児童会活動の活性化

児童会長・児童会副会長・各委員会委員長・学級代表の選出と任命

児童会組織を作り，役割の自覚を促して，推進する意欲に支えられた主体的な児童会活動を目指した。

②なかよし班活動の活性化

児童集会や学校行事になかよし班活動を意図的に取り入れ，班長を中心に目標に向かって自分たちで計画・実践し，振り返る活動を多く取り入れ，自主的・自治的活動を目指した。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

〔成果〕

○教師が活動の中で「３つの力」を意識して支援することにより，児童は自分たちで活動を見通し計画的に段取り，思いを本気で主張し合い，活動の成果と課題を自然に振り返ることが一連の流れとなるなど，「３つの力」が生きて働く場面が増えた。

○児童を主体とした活動にすることで「学級が楽しい」，「話合い活動が楽しい」と感じる児童が増え，活気がでた。それに伴って，児童一人あたりの総欠席日数も減った。

○学校や学年の目指す姿が明確となり，教職員が同じベクトルで授業や活動に取り組めるようになった。それにより，特別活動の取組で，学校や学級における児童のつながりを意識した活動ができ，児童の変容に気づく目が持てた。（児童相互・教員）

（２）研究成果の意義等

この研究を通して，「３つの力」が一連の流れとして生きて働き，子どもたちが周りの友だちとの人間関係を深めながらよりよい学級や学校を創り出そうとしている姿を，私たちが目指した「心と学びのひとりだち」の姿だと考え，手応えを感じている。今後も特別活動を核にした実践研究を継続し，学力や自尊感情の向上も意識しながら，研究の成果を本校の伝統としていきたい。

（３）指定期間終了後の取組

平成２５年度の取組をもとに，話合い活動で身につけた「３つの力」が学校の文化として根ざすように活動を仕組んでいく。また，自尊感情を高めるために諸活動の結びつきを大切にした活動を計画し，実践する。加えて，本年度作成した諸計画の吟味をし，来年度に向けて活用・実施できるような準備をする。

また，全国学力・学習状況調査の国語Ｂ（スピーチの表現、レクリエーション活動等）の比較，特別活動に対する意識調査や欠席日数調査等から，児童の実態を具体的な数値でとらえ，研究を検証するために役立てたい。